

運営ボランティア



ボランティア養成のための基礎研修会



本番前の業務確認



車椅子貸出所



迷子・遺失物預かり所



入場口誘導



入場チェック



資料配布



資料配布



表彰式の補助



会場美化



応援の補助



ドリンクサービス



弁当配布



■情報支援ボランティア



研修スタート



本番前最終研修



映像装置を活用した情報保障



映像装置を活用した情報保障



要約筆記(パソコン)



案内業務



座席の誘導・筆談

役員懇談会

岩手県選手団
激励会

県民の皆さん

自衛隊の協力

希望郷いわて
復興写真館

わんご広場

総合案内所

歓迎装飾

県民運動

炬火イベント

入賞記念品等

広報活動

両大会の
あゆみ

所感集

募金協賛

実行委員会



「希望郷いわて大会」「マケズ」の心一つにして

情報支援ボランティア(手話)
総括 高橋 幸子

情報支援ボランティア(手話)は、今まで県の情報提供施設に委託してきたそうですが、本県は、一般社団法人岩手県聴覚障害者協会が受託しました。総括担当を引き受けた時、全ての情報支援ボランティア370人や県とのかかわりを密接に持たなくてはならないと思いましたが、実感が持てず大変不安でした。4年間息つく暇もなく、養成事業の会議、講座の内容検討、テキストやDVDの作成、指導者養成、ボランティア研修等を実施しました。全国の皆さんに東日本大震災時に支援していただいたこともあり、『希望の郷から、ありがとう』の気持ちを伝えたいとここまで来ることができました。大会期間中、雨、寒さ、強風にも吹かれましたが、鍛えて参加した選手の皆さんに、宮沢賢治の詩「雨二モマケズ」を胸に優しいおもてなしができたと思います。県内の全てのボランティアと情報支援ボランティア(手話)の方々のたくさんの笑顔とチームワークで終わることができました。ご協力くださったボランティアの皆さん本当にありがとうございました。



大会の成功に思いをこめて

情報支援ボランティア(要約筆記(手書き)・筆談)
水泳リーダー 野中 信子

競技会は岩手県水泳連盟競技役員総勢約140名により運営されました。情報支援ボランティアの手話、要約筆記(手書き)総勢49名は、4箇所配置され当日まで準備をすすめてきました。大会成功は、競技団体との打合せ会からも「徹底した細部への気配り」が伝わり、関係者全員が一丸になったことだと強く感じています。全国からの復興支援に、その姿を見せるべき本大会にしたい。同じ目標、同じ方向を向いていながら、ボランティアひとりひとりの「おもてなし」への思いが強い。リーダーとして、自分が楽しめなければ、おもてなしは出来ないと考えていました。そのためにはどうすればいいのか。まずは、マニュアルを熟読することから始めました。そして、各配置場所で班長を中心に進めることで連携と団結ができました。最終日は全員で選手団を見送りました。最後の最後まで止まない拍手と歓声。送る人も送られる人も満面の笑顔です。誰かのために役にたてたのかな・・と思えた瞬間、熱く達成感を感じました。この機会に出会ったすべての皆様に感謝し、次の開催県にこの思いも伝えたいと思います。